



啓北中「6つの行動指針」 すべての教育活動を この考えのもと推進していきます。

- 01 **学ぼう** (子どもも教師も学ぼう)
- 02 **育てよう** (未来を生き抜く子どもに必要な資質・能力を育てよう)
- 03 **楽しもう** (子どもも教師も楽しもう)
- 04 **聞こう** (意見や悩み事など、子どもの声に耳を傾けよう)
- 05 **寄り添おう** (相手の立場になって考えよう)
- 06 **つなごう** (子ども同士をつなぐとともに、地域に、社会につなげよう)

大人の責任と親心

中学生になった我が子を前に、この言葉をどのように考えますか。

将来を見据えると、

しっかりとした社会人になるために、勉強させなくては・・・

人とかかわりが大切だから、人を思いやる気持ち・優しい気持ちをもたせなくては・・・

社会のルールを守れるように、善悪の判断ができるようさせなくては・・・ などなど

「させなくては」って考えていませんか。(考えてしまいますよね)

この思いが、「きちんと勉強しなさい!」「こんなことやっていたら、将来生きていけないよ!」などという叱責につながってしまうのではないかと考えています。

大人には、自分の経験してきたこと、歩んできた道があり、「自分はこのように取り組んできたから、現在の自分がある。だから、こうしたら大丈夫(大丈夫じゃない)」・・・と言えるのだと思います。これが「大人の価値観です」

保護者(親)の責任として大切なのは、大人の価値観を伝えるのではなく、子供自身が「よし、やってみよう、やってやるぞ!」という思いをもたせる仕掛けをすることです。「こうしなさい、ああしなさい」と具体を指示することではないはずです。

「子は勝手に育つ」・・・という言葉聞いたことがあります。これは、干渉しすぎるな、という意味ですね。放任してよいということではありません。

「かわいい子には旅をさせよ」・・・ということわざが私は好きです。ここでいう「旅」は、子供を成長させるために講じる「親の仕掛け」だと思います。子供は勝手に育ちません!

子供を成長させる仕掛けを講じることが「大人の責任」だと思うのです。

また、決して、子供の代わりに何かをやってあげたり、先回りして子供のやりやすい道をつくってあげたり、障壁を取り除いたりすることでもありません。子供が失敗したっていいんです。次に失敗しないように「こうしてみよう」と子供に考えさせることが大事なんです。

でも、親としてとても心配ですね。それが「親心」だと思います。身長が親より大きくなり、ひげが生えても・・・いつまでたっても子は子供です。(この気持ち、とっても素敵ですね)

親心をもち続け、大人の責任を果たす・・・難しいけれど、頑張ってみましょう。私も、大切な啓北の生徒を預かる立場として、生徒一人一人の成長を願う気持ちを持ち続け、生徒が成長するための教育活動という仕掛けを講じていきたいと思っています。

「こどもど真ん中です!」



(苦小牧市長公約 子どもど真ん中のまち 苦小牧)

苦小牧市立啓北中学校長 遠藤佳伸